林大だより

第 72 号　　平成 28 年 10 月 20 日　　長野県林業大学校翠桧会

2 学 年　オーストリア研修

1学年　城山登山

1学年　屋久島研修

三度温まる

長野県林業大学校　校長　山口　勝也

盛夏、二年生の校外実習の引率で信州大学農学部の伊那市手良沢山演習林へ出かける機会があった。

実習のメインは高性能林業機械などの操作訓練で、学生達は自動制御型集材機、タワーヤダ、プロセッサ等を交代で操作していたが、二年生ともなれば経験値は高く、こうした実習は手慣れたものだ。機械の操作の合間には、演習林の管理棟に設置されている薪ストーブ用の薪づくりもあった。野積みされている針葉樹丸太を四十㎝ほどにチェーンソーで玉切り、薪割り斧、又は薪割り機で適当な大きさに割り、積み上げる作業だ。

薪割機の操作ではそうでもないが、斧での作業では個人の技量の差が顕著に現れる。必死の形相で斧を振り下ろす者もいるが、軽く振り下ろしているようでも気持ちよく薪が割れていく者もいる。体力の消耗具合も、作業効率の差も歴然だ。聞けば、実家でも薪割りをしているそうだ。さもありなん。

炎天下の作業でもあり、特に斧を振るっていた学生は大汗をかいていた。「薪ストーブは三回温まる。」という言葉を思い出した。「薪割作業で温まり、ストーブの火にあたって暖まり、ストーブに置かれた鍋のシチューで温まる。」のだそうだ。薪割りでは十分すぎるほど暖まったが、演習林の管理棟のストーブにあたることも、そこで作られたシチューを御馳走になることもまずないだろう。しかし、林大にも薪ストーブが二台ある。三十六期生が卒業記念に残していった玄関のカラマツストーブと実習棟新築に伴い設置された石張りのストーブだ。これらストーブの薪も学生が用意する。演習で伐倒した間伐木などを持ち帰り、薪に割って実習棟の軒下などに積んでいる。

木曽の冬はさぞかし厳しかろうが、ゆらゆら揺れる炎を見ながら、ゆっくり暖まれる機会を楽しみにしたい。ストーブにはシチューならぬ、シシ鍋でも置いて、「薪ストーブ生活がもっと広がれば、木材利用が増えて、林業が活性化し、学生の就職先も増えるかもしれない。」などと気楽な事を考えながら煮えるのを待つのも良いかもしれない。

２学年　神輿まくり

１学年　御嶽整備登山

林大生に期待すること

中部森林管理局　局長　新島　俊哉

卒業後、森林・林業関係の仕事に携わられる皆さんには、是非、「四次元の眼」を持っていただきたいと思っております。ここで言う四次元とは、三次元に「時間軸」を加えたもので、そのスケールは数年や数十年単位ではなく、百年単位と考えて下さい。

林業のサイクルは、一年サイクルの農業とは異なり、数十年、百年と長期間にわたります。私たちが日々生活している中で、森林が変化していると実感することはほとんどありませんが、数十年、百年を経ると森林は非常に大きく変化します。我々森林を扱う技術者の使命は、公益的機能を発揮する環境材としての森林を維持しつつ、資源として有効に活用していくということです。そのためには、森林の持つ潜在能力を見極めながら常に百年先を見据え、今やるべきことは何か、やってはいけないことは何か、をしっかりと考えた上で行動に移さなければなりません。林業大学校で過ごす二年間、皆さんには是非、「時間軸」という視点を持って、様々な技術を習得いただきたいと思います。

そして手前味噌ではありますが、そのような技術を活かすことが出来る場が、私どもの職場である林野庁だと考えています。林野庁では、我が国の森林面積の約三割という広大な国有林野というフィールドで、林業のみならず、生物多様性の保全や山地災害の防止など、森林に関することなら何でも、自分たちの創意工夫で実践することができます。一般会計化後、採用人数も増やしておりますので、林業大学校で培った皆さんの力を試す場として、是非、林野庁の門をたたいて下さい。心よりお待ちしております。

林大生へありがとう　そして期待しています。

木曽福島林業振興会　顧問　古幡　和久

林業大学校が私たちの地域（集落）に出来たのが昭和五十四年、当時私は転勤族であって林業大学校とのかかわりはなく過ごしていたところですが、縁あって木曽森林組合からリンケイ新聞へと勤めを変えた中で林業大学校の卒業式や入学式の取材に訪れたのが林業大学校を知るきっかけとなりました。

その後は、地元住民で組織する「城山史跡の森倶楽部」やＮＰＯ法人「ふるさと交流木曽」に属し、これらの団体が行うボランティア活動の中に皆さんの積極的な参加をいただき一緒に汗を流したこと、また「御料館」や「木曽山林資料館」で皆さんと触れ合う機会をいただいたご縁から私ごとき者に依頼があったものと考えています。

さて、林業大学生の皆さんの中には遠く郷里を離れて木曽の地へ学びに来られた生徒が半数以上と聞いていますが、皆さんがこの地の人たちとのふれあいを大切にし、夏祭りや冬の雪明りの散歩路など各種の行事にボランティアとして参加をしていただき地域活動の原動力となっていただいていることに感謝申し上げます。

皆さんは卒業後に公務員であれ、企業人であれ、それぞれの地で森林や林業、或いは木材産業に携わっている方が大半と思いますが、森林や林業、木材産業は百有余年を周期とした壮大にして悠久な業と考えます。

木曽の地で二年間に学んだ技術と知識、そして地域社会で得た経験は皆さんにとって大きな財産といえます。この財産を活用して少子高齢化に悩み縮小されていく農山村を支える森林・林業の世界に明るい未来を構築していただきたいし皆さんにはそれが可能と考えています。

今まで、大勢の方々が皆さんへの「期待」や「助言」などを心に残る言葉で語り、心に残る文章で伝えていると思います。皆さんはそれを胸に林大生として学び、描き膨らませたであろう夢を実現してください。

木曽町駅伝大会（表彰式）

学生のページ

あすなろの呟（つぶやき）

学校・寮生活から

林業大学校で生活をして

1学年　池上　智哉

林業大学校に入学して半年が経ちました。最初は、寮生活や学習の事で様々な不安がありましたが、寮生活では毎日先輩方や仲間と生活をすることで、毎日がとても楽しくあっという間に過ぎていきます。学習では、いままで習った事のない講義や難しい一般教養もありまだまだ不安も多いです。しかし、そういった学習もとても新鮮で面白いです。また、実習も多く実際に外に出てチェーンソー等の機械を使った実習や測量など難しいものもありますが、それも寮の先輩方や先生方に教えていただき毎日を過ごしています。これからは座学も実習もどんどん難しくなっていくと思いますので、今後は今まで以上に実習や座学に積極的に参加して林業に関する専門的な技術や知識を身につけていきたいです。

1学年　入学式

林業大学校の生活は二年間という短い期間です。その中で自分の将来を決めるために多くの事を学習するとともに、仲間と様々な事も経験して素晴らしい学校生活にしたいです。

1学年　5月 測樹学実習（林大構内）

1学年　6月 林業機械学実習（木曽町）

入学から半年

1学年　口山　真史

長野県林業大学校に入学して半年が過ぎました。振り返って考えてみれば、この半年間は高校に在籍していた時と違い、あっという間に過ぎていったような感じがします。四月中には屋久島研修があったり、一時もたたないうちに御嶽登山道整備に参加したりなど、これまで普通高校だった私にとって怒涛の半年間でした。

最初は、鹿児島からはるばる縁も所縁もない長野県で寮生活を送ると考えると心配でした。帰りたいと思っても簡単には帰れない距離ですし、身内に会いたいと思ってももちろん会えません。その上友達が出来なかったらと考えると不安でたまりませんでした。そんな不安を抱えながら入寮日当日、学校に着くとたくさんの先輩方が笑顔で出迎えてくださり、少し安心しました。

次の日から実際に学校生活が始まり、普通高校では習わない授業や、実習が徐々に入って来るのについていくのは大変でしたが、クラスメイトや先輩方に教えてもらうちに段々と授業内容も理解できるようになりました。このような忙しい学校生活を日々こなしている間に、不安も少しずつ消えていきました。

これから就職先を見据えて学習内容もより複雑なものへと変わり、学校生活も忙しくなっていくと思いますが、背中を押してくれた家族や先生方に恥じぬよう、過ごしていきたいと思っています。

林業大学校に入学して

１学年
坂井　文耶

長野県林業大学校に入学して、半年が経ちました。入寮前は、友達ができるか、ちゃんと勉強についていけるか、など不安でいっぱいでした。しかし、入寮日当日は、たくさんの先輩方が笑顔で元気に出迎えてくれたので、今まで抱えていた不安がなくなりました。実際に学校・寮生活が始まると、毎日がとても楽しく一日、一日がとても早く過ぎていきます。難しい一般教養科目やチェーンソーなどの機械を使った実習など、今まで経験したことのない講義ばかりで、とても楽しいです。また、分からないところは、先生や先輩方が分かりやすく教えてくださるので、戸惑うことなく生活を送ることができています。まだまだこれから、今よりも一段と難しくなると思いますが、しっかりとついていけるように頑張っていきたいです。

長野県林業大学校は、全寮制でたくさんのことを学ぶ事ができますので、一つでも多くの知識を吸収し、将来を見据えてこれからの生活に励みたいと思います。

１学年　７月 樹木学実習（実習棟）

あの日から

１学年
田野　友香

天気は大雨。激しい雨の音を聞きながら、私たちは四月に入学式を迎えました。新しい仲間達と撮った集合写真は、女子と男子の身長差で生まれた凹凸が木曽の山のようだと例えられ、緊張でこわばった顔が少しだけ緩んだのをよく覚えています。

あの日からもう半年が経とうとしています。全寮制という環境の中で、特殊な分野である林業を学ぶ。今までの生活とうって変わったそんな毎日は、とても新鮮で楽しく、惜しむ暇など与えないくらいあっという間に過ぎて行きました。しかし、今だからこそこのように言えますが、最初はこの生活に少し不安を覚えたものです。寮生活を送るうえでの人間関係もそうですが、特に不安を覚えたのは林業分野の学習面です。森林科や農業科で学んできた者が大半のこのクラスで、普通科の私が皆と同じように授業についていけるのか不安でした。また、実習においても、小柄で体力も筋力も周りより劣る私が、皆の足を引っ張らないかとても心配でした。ですが、先生方は皆基本から丁寧に指導してくださって、おかげで勉強が嫌になることもなく、楽しく学習できています。実習でも、手を貸してくれたり、励ましの言葉をかけてくれたりする仲間の助けがあって、頑張れています。

こうしてたくさんの人々に支えられて、私は今、とても充実した生活を送れているのだということを、この記事を書きながら改めて実感し、ありがたい気持ちでいっぱいです。ずっとやりたかった林業を、この林大で学べることができて、私は本当に幸せです。

これからも時間はあっという間に過ぎてゆくことでしょう。この喜びを噛みしめながら、二年間という短い林大生活を悔いの残らないよう過ごしていきたいです。

１学年　９月 特用林産学実習（林大構内）

林業大学校に入学して

１学年
原　旭陽

林業大学校に入学をして、早くも六ヶ月が経ちました。あっという間に時間が過ぎていると感じています。入寮前、寮生活はどのようなものか、友達はできるかなど多くの不安でいっぱいでしたが、入寮当日、学校に着くと先輩方が笑顔で出迎えてくださり安心しました。実際に学校、寮生活が始まり毎日が楽しく

一日があっという間に終わってしまいます。私は、高校のときに林業に関することを学んでいましたが、高校のときよりも広い範囲での授業なのでためになっています。先生たちが分かりやすく教えてくださるので授業が楽しいです。これからは、授業の内容が難しくなっていくと思うので今まで以上に学習していきたいと思います。実習なども増えてくると思うので怪我には注意していきたいと思います。

学校生活は、二年という短い時間です。一つでも多くの知識を身に付けて就職に向けて頑張っていきたいです。

寮生活

無駄の無い林大生活を。

2学年
大野　真裕

林大に入り、あっという間に二年になり、残すところ五か月となってしまいました。入学当初は部屋の一年生が自分一人であったため、心細さと心配で、今後林大で学んでいくことが出来るのであろうかとても心配でした。しかし、部屋の先輩にご飯に連れて行ってもらったりと、いつの間にか学校に馴染んでいました。先輩が卒業し、自分がいざ上級生になると、先輩の存在が大きかったことに気付きました。先輩が卒業間近に言っていた、「二年はあっという間、就職して後悔のないように毎日を大切に」と言われたのを思い出しました。すでに後残り五か月間となり、より実践的な授業が増え、覚えることや、考えることが増えてきました。残りの大切な時間、林大生活を無駄の無いように送り、将来に向けて技術を身に付けるとともに、これまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。

2学年　5月 インターンシップ発表会（講堂）

林大での生活

2学年
清水　智也

自分たち二年生が入学をしてから、もう一年と半年が過ぎました。長いように見えて短い学校生活なのだなと最近感じます。入学した当初は初めての事がたくさんあり、不安がいっぱいの林大生活を送っていたのだなと思うことも多かったが、今となっては入学当初の不安などなかったかのように楽しく生活を送っています。あと六ヶ月で二年生はそれぞれの進路に向かって進んでいくわけですが、この林大での授業で学んだ知識や、授業以外の寮生活で経験した事が就職した先で必ず役に立ってくると思います。そして、知識だけではなく林大で知り合った仲間は林大生活が終わって皆がバラバラの場所で働くことになっても、二年間同じ寮で生活したという事もあり、相談などもしやすい仲間になってくるのだと思います。残りの林大生活もあと六ヶ月という短い期間ですが、自分の進路に向かって頑張りつつ残りの林大生活を楽しんでより良いものにしていきたいと思います。

2学年　6月 森林保護学実習（長和町）

集団生活の中で

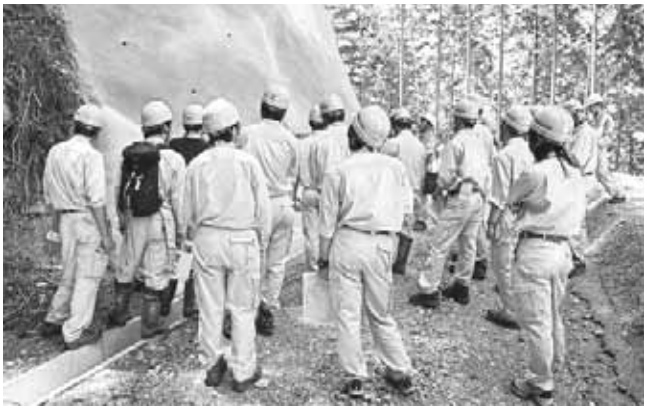
2学年
野田　愛風

長野に来て一年以上が経ちました。長野の森林を通して春夏秋冬を体験し、驚きや戸惑い、発見の連続でした。特

に寮生活については、新たな発見ばかりです。

私は、十一人家族の中で育ったのを根拠に寮生活を甘く見ていたようです。家族ではなく、他人と一緒に生活するというのは、それなりのハードルがありました。しかし、言葉・習慣・文化・気候などの違いに、戸惑うと同時に新たな発見があります。また、自分自身を見つめる良い機会になりました。驚きや戸惑うのは、知らないから。知らないということは、発見できるということです。そう考えると学生寮は、新たな知識の宝庫なのかもしれません。

私を含め、進路に悩む人もいますが、寮の先輩や同級生と意見を交わし、徐々に進路を定めていきました。林業の能力をつけながら、自分を知る機会が与えられていることに感謝しています。



２学年　７月 林道現地研修（根羽村）

２学年　８月 造園学授業（製図室）

二年間…

２学年
藤澤　宗広

長野県林業大学校に入学してからあと残り五ヶ月程で卒業となり、二年間という時間はあっという間に過ぎていくと感じました。

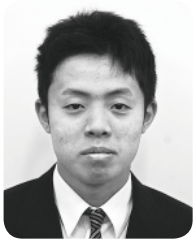
林大生活を振り返ると、一年生の前半は、寮生活や勉強などに慣れ始めた頃には終わってしまいました。後半は就職のことを考え、林業の基礎的な学習、実習を行い、林業に対する知識や技能を学ぶことができました。とはいえ、一年間は、慣れるだけで過ぎていく感じでした。

二年生の前半になると、一年生での経験や知識で就職活動を行い、様々な組合や企業で研修しました。しかし、まだ自分の経験、知識不足が目立つので、後半ではしっかりと学習していきたいです。

残り五ヶ月程ですが様々な行事があり、勉強と行事等にメリハリをつけて学習、行動をしたいと思っています。また、自分に足りないものをしっかりと学び、今後の将来に繋げられるようにやっていこうと思いますので、時には家族や先生にも面倒をかけてしまうこともありますがよろしくお願いします。

２学年　９月 木材加工学実習（県林業総合センター）

貴重な林大生活



２学年
山下　拓眞

林大に入学して一年半が経過し、林大での生活もあと半年となりました。林大に入学して学生寮に入った頃は慣れない集団生活に苦労しましたが、先輩方やクラスの仲間の助けもあり、今は林大での生活を楽しんでいます。

林大では二年間で多くの場所に研修や体験に行きます。国内外の研修、組合や事業体の現場見学、植樹祭や地域事業への参加、他校との交流事業等があります。林大で行われる研修や体験は自分の意識向上や他人とのコミュニケーション能力を高めるもので、職に就いた時には必ず必要になってきます。林大での生活は本当に貴重なので、あと半年悔いが残らないようにしたいです。

保護者のページ

絵の一言

好奇心と情熱を持ち続けて

岡本　隆志

息子が高三の春に妻が林業大学校の事を職場で聞いてきて初めて本校の存在を知りました。早速息子に伝えたところ興味を持ち、学校について色々調べていくうちに息子にぴったりだと親子共々思いました。

十七年前に関西から移住して大町の山の麓で暮らしてきた環境もあり、山の風景や動植物の研究が大好きで小さい時から人とちょっと違う視点で多くの事に興味を持ち、自分の世界観を持ちながらも色んな人の話を聞いて昔の人の知恵を学び、高校時代の山岳部では山の美しさと厳しさを体得してきました。

一方手先の器用さと一旦始めたら止まらない集中力で絵や工作の他に縫物、陶芸、染め物など木や植物を生かした作品を斬新なアイデアで作ってきました。

木曽での二年間も素晴らしい自然環境と先生方、寮生活で培われるものが多くあると思いますので、是非、今後の自分の進む道に生かせるように失敗を恐れずにどんどんチャレンジして欲しいと願っております。

驚き・感謝

神戸　香美

長野で生活している時は、頭痛・ケガ・花粉症etc…親元を離れての生活に不安でいっぱいでした（親が…）。しかし、入学してからはそんな心配は全く無く、特に花粉症はどこへやら?!よほど木曽の環境が息子に適しているのでしょうか、発症していないのです。

日々の実習、屋久島研修、御嶽山登山、インターンシップなど、内容の濃い毎日。寮では美味しい食事をいただき、すばらしい仲間、すばらしい環境の中、充実した日々の様子を聞き、林大に進学させて本当に良かったと思い、感謝しております。

一日一日を大切に、何事にも真面目に取り組み、目標を達成できるよう努力し続けてもらいたいです。

スノーボードが大好きな息子にとって、恵まれた環境でもあります。文武両道を目指し、益々成長した姿が見られたら嬉しいです。

森林散策（木曽町）

志を信じ見守る

白澤　幸恵

娘には「森と関わる仕事に就きたい。自然の素晴らしさを多くの人に伝えたい」という夢があります。幼少期から登山やキャンプ、家の農作業の手伝いなどで自然に親しみ、高校も農業高校と、振り返れば割と多くの時間を自然の中で過ごしてきましたので、そのような経験もあって夢を持つようになり、実現に向け、森について実践的に学べる林大に進もうと決意したようです。

学校や寮の先生方、先輩、同期の仲間、地域の皆さんなど多くの方に支えていただいて学生生活を始め、おかげさまで半年となります。頼りなく稚拙で職業意識に薄いと感じることもまだありますが、物も情報も何でも簡単にすぐに手に入る「スマホ世代」の娘が、一〇〇年、二〇〇年先を見据えて木に触れ、汗を流す仕事に関わろうとするその志を信じ、安全を祈りつつ見守っていきたいと思います。

林業従事者だけでなく文学者、芸術家など多くの先人が、自然は私たちに全てのことを教えてくれる存在だということを、いろいろな形で表現しています。木を植え、伐採するまでの長い歳月の間に世の中は変わっていきますが、森は人に、その変化にどんな価値観を持って対応していくのかを問いかけているようにも思います。娘が林大生になり、森に一歩足を踏み入れたことで、家族も、身近な山々を今までとは違った思いで見つめるようになりました。

大いに夢を語り合え

長崎　博

入寮式、入学式を我が子と体験させていただき、大変ありがとうございました。入寮式の日、廊下の向こうから学

生らしき若者達が現れ「お名前は?」と聞かれ、息子が「長崎祥也です」と応えると、「長崎くん待ってました」とばかりに息子を連れて行ってしまい、段取りなど判らないまま、先輩学生の皆さんの勢いに任せ荷物をあずけたものでした。

後から考えると、一年この学校で過ごした先輩達であることに気づき、林大への期待が高まったものです。わが子本人は、事前に学校見学をし先輩たちにも会って、「林大へ行きたい!」と、強く強く思っていたことと思いますが、親としては合格をいただき、伺った学校の様子に驚き感心したものです。

全校生（木曽町幸沢）

早いもので入学して半年が過ぎ、親も羨ましく思った屋久島の研修も入学早々に体験し、夏休みは自動車免許の取得に取り組み、もう二学期。林大で過ごせる時間は二年間、もう四分の一が過ぎようとしています。

今年は「山の日」という新しい国民の休日が施行され、「山と親しみ、この豊かな自然を守り、将来により豊かに残していこう」と、国全体が信州や日本、いや、世界の山や自然が注目される年となりました。この年に、林大に入学された皆さんは、何かの申し子ではないかと思ってしまいます。

皆さんは、地域の方々に親しまれ、頼りにされて二年間を過ごすのだろうと思います。

学校で学ぶ時間、仲間や先輩と過ごす時間、地域の皆さんと過ごす時間は、人生の中でとても輝いている時間だと思います。憧れと期待を持って林大生となった皆さんは、既に夢を叶えた経験者です。夢の種を大きな大きな夢に育てるために、林大で学ぶこと、林大生として過ごす時間を大切にし、みんなで大きな夢を語り合って欲しいと思います。

自分で選んだ道

宮田　孝

小学校から高校を卒業するまで、ずっと陸上に支えられてきた息子。進路は、部活で鍛えた心と体を生かせる職業に就きたいと考え、林大への進学を希望した。

幼い頃から母親に頼りっぱなしで、ひとりでは何も出来ないのかと心配することも多々あった。林大では寮生活を送る。男は早く親から離れた方が良いと思い賛成したが、心配は尽きなかった。

入寮日のこと。林大の伝統なのか、在校生が全員で、荷物を車から運んでくれ、さらに同室の先輩が寮内を案内してくれた。すごく感動した。この学校を選んだ息子を誇りに思った。

初めて帰省した息子を見て感じたことは、喜びと感謝に溢れ、優しい気持ちが養われた大人に成長しているということだった。林大の全人教育、大自然の中での学習と集団生活が、息子を穏やかな人格へと変えてくれていた。

良い環境、良い仲間、一流の指導者がこの学校にはあると確信した。親では教えてやることができない事を学ぶ我が子にエールを送る。

応援します林大生

市川　浩

林大での生活も一年半になり、先生方や寮母さんのご指導のもと、学業・寮生活を頑張っていると思います。

私との会話の中にも、専門用語がたくさん出てきて成長を感じております。生活面では、バイトや、地域の方々とのバレーボール活動でお世話になった事を色々楽しそうに話している姿を見て、林大に行って本当に良かったと思っております。

今も、林業に向けて知識と技能を積み重ねている最中かと思いますが、現場に出たら「安全第一」でお願いします。

残された学生生活を悔いなく精いっぱい楽しみ、自分の力で進む道を悩みながら探していってください。

これから、社会に出ていく林大生に、仲間を大切にし、謙虚な気持ちで、感謝の心を忘れずに頑張ってください。応援します。

木曽での二年間

黒川　亮子

木曽の林大へ行くことが決まり、昨年の四月に入学してから、早いもので、もうすぐ

一年半になろうとしています。木曽は、こちらより暑いのか寒いのか、防寒具は？防寒靴は？などと考えましたが、昨年の冬は、雪も少なく過ごしやすかった様子です。

本人は、入学してからすぐの屋久島研修や二年生でのオーストリア研修などをとても楽しみにしていたようで、寮生活も含めた学校生活は、後々になっても、中身の濃いものであったと実感すると思います。

様々な研修体制や設備環境などを整えていただき、充実した学生生活が過ごせているのだと、顔つきや、体つきからもうかがえます。

体育授業（町民体育館）

林大で学んだ事が、これからの人生でも役に立つと思います。たくさんの経験を積んでいって欲しいと思っています。

「何か」に夢中になろう

千代　登

何を書こうか迷ったが、学生諸君が読むことも考え、私自身が青春時代に影響を受けた言葉の一つを掲載したいと思う。これは高校の頃に観たＴＶドラマの中で、余命宣告された中年男が若者（中学生）に語った言葉であり、今なお心に残っている。内容は、おおむね以下のとおり。

「大事なのは夢中になることだ。それが心を育てる。若いうちは何かを深く好きになることが必要だ。これは自然にできることじゃなく、無理にでも好きになる訓練をしなきゃいけない。漫画でもロックでも何でもいい。ただ漫然と楽しむんじゃなく追求して極める。その時、君の心は前より豊かになっている。何かに夢中になれることは、すばらしい能力なんだ。何か一つを好きになれる人は、他のものも深く愛することができる。それは努力しなければ持てない能力なんだ。一番つまらない人間は、くだらないとか言って何に対しても深い関心を持てない人間だ。」

中年男になった私は、現在も自問している。

林大での成長

橋口　猛

夏休みは、バイクで帰って来ると言い元気に長い道のりを帰ってきた。長野へ行ってから早くも一年と一夏が過ぎようとしている。

高校より、屋久島の離島から鹿児島市内の学校へ進学し、三年間の寮生活や軟式野球部を経験したので、長野の寒さ以外はあまり心配せず送り出した。久しぶりに帰省し学校や寮での様子、ＪＡやスキー場のバイト、海外研修等いろいろ話したり、私の現在行っている作業現場で架線測量を手伝ってもらい、息子が将来の考えや就職先の事などハッキリと話してくれる姿は少し頼もしく感じた。

長野県林業大学校のすばらしい校風や先輩達の教えを後輩達に引き継ぐ事が、自分の成長へとつながると思います。友人を大事にし、健康に注意し学んでください。

最後に、校長先生に約束した「やれば出来るんだし」という姿を見せてください。

あと半年

丸山　始己

早いもので息子の林大での生活も残りほぼ半年。林大を勧めた理由は色々有りますが、最大の理由が学生時代に寮生活を経験させたかったという事。私自身、学生時代は入学から卒業まで寮で生活し、そこで知り合った仲間達との付き合いが、卒業後四十年を過ぎた今でも続いています。

高校入学時から一人暮らしを始めた兄達とは違い、高校卒業まで家から出た事のない息子が、上下関係や個人のプライバシーの確保の難しい閉鎖的ともいえる環境に対応出来るか多少不安ではありましたが、今までこれといった問題もなくきたこと、他の寮生とも比較的良好な付合いをしている事を考えれば、やはり林大を選んで正解でした。

二年間、寮生として同じ時間、空間を仲間達と共有した事が、これからの息子の人生において、間違いなく有益になるものと確信しています。

また、帰省する途中とはいえ、送ってきて頂いたり、企業研修の段取りや宿泊させて頂いたりと、ご迷惑をおかけした方々にお礼申し上げます。

まだ先が決まっていない状況ですが、残り半年間を有意義に過ごしてもらいたいと思います。

檜のアドバイス

転勤族もいいですよ

中部森林管理局
岐阜森林管理署
栢木　洋平
（第18期生）

「勉学は学生まで」私が就職する前まで持っていた考えです。現実は厳しく、森林管理署に就職して十九年、日々勉強が続いています。

さて、国家公務員は転勤族と世間一般で言われることがありますが、私ももれなく十九年で六回引っ越しをしています。飯田市、飯田市上村（遠山谷）、松本市乗鞍、小諸市、木曽郡上松町、南木曽町と転勤をし、現在は木曽御岳の裏側、岐阜県下呂市にある岐阜森林管理署に勤務をしています。全国をまわる方に比べれば移動した地域は少ないですが（松本で知り合った環境省の方は北海道と沖縄に転勤していきました。）よく動いたなあと思います。

私が現在している仕事は「森林育成担当」、地拵え植付けから初回間伐までの保育作業の事務処理を主に行っています。通常は森林経営に係わる仕事をしていますが、その他に国として民間では投資のしづらい試験研究の仕事があり、最近では一番の課題として「低コスト化造林」に取り組んでいます。長年続く木材価格の低迷による森林経営の改善策の一つとして一番経費の掛かる初期保育の費用削減を目指しています。小難しい内容は避けますが、ここで最初に書きました国家公務員は転勤族というのが実は役立っています。

引っ越しが多いのが公務員の一番いやな部分になることも多いですが、私が今まで転勤をして得た感想は山も人や文化と同じで場所により全然違うということです。有名な林業地だけでなく各地域に合った森林経営が沢山あります。色々な地域で仕事をすることにより全然知らなかった管理方法を学ぶことが出来ました。それらを組み合わせ「低コスト化造林」に取り組んでいます。林大では実習等で県内外の林業地で学ぶ機会も多いです。皆さんも他と違うという所を学んでおくと良いと思います。

最後に、転勤により皆さんとは将来どこかでお会いする機会もあるかと思います。そのとき皆さんが、住んでいる、仕事をしている地域の林業を教えていただければと思います。

さらなる改革を！

教　授
武田　雅宏

長野県林業大学校の関係者のみなさん〝こんにちは〟

私は、この四月に参事兼林業大学校教授として赴任しました武田雅宏です。

実は、十年前にもここ林大に務めさせていただき、「檜のアドバイス」を書かせていただきました。この頃、入学者が定員の半数となった林業大学校の改革に関する仕事を担当し、日々忙しく飛び回っていた記憶があります。

その時の文面には…今回は、今進めている林業大学校の改革のポイントについて少し説明しておきます。

改革のコンセプトを、『森林・林業・木材産業の現場での課題に即戦力となる人材の養成』として明確にします。

そして、そのコンセプト実現のため、以下の三つのツールを導入していこうと考えています。

それは、

一．現場における実践研修の強化を図るため、〝実習時間を約十％アップ〟

二．現場の求めに応じた人材の育成を図るため、〝コース制の導入〟

三．地域そして業界との連携を強化するため、〝インターンシップ（企業内体験研修）〟の導入　です。

そして、これらのツールの機能性をアップするため、新たに二二二ヘクタールの演習林を三岳県有林に設けるとともに、森林情報士二級資格や樹木医補等の資格養成機関としての認定を受ける手続きを進めています。

また、学生の皆さんの学習意欲をより高め、内容の高い授業を行うために、科目ごとのシラバス（授業方針書）を作成し、授業の内容や評価基準を明確にしていこうと考えています。…と書かれています。

これらの改革は、歴代の職員の努力により、着実に実施され、確実に実を結んできました。その成果は、改革以来の平均の競争倍率一・七倍といった数字にも表れています。

しかしながら、この改革から十年が経過しようとしている今日、当時全国で六校であった林業大学校は、ここ数年で急激に数が増え、二十校に達しようとしているなど、林業大学校を巡る環境は大きく変化してきています。

私たちスタッフは、さらなる改革を進め、卒業生も在校生も、そして林大に係わる人全てが誇りを持てる「日本一の林業大学校」の構築を目指していきたいと考えています。

最後に一言、学生諸君にアドバイスを。

「内に小さくまとまらず！外に向けて積極的な交流を求めよ!!」

第67回全国植樹祭・第45回全国林業後継者大会への参加

今年度、長野県において第六十七回全国植樹祭が開催され、県内各地で記念イベントが行われました。林大生は、六月五日(日)に県内各地区で行われた植樹行事のうち、一年生は伊那市の鳩吹公園で山林の除伐作業を、二年生は長野市の茶臼山自然植物園で実施された記念植樹のサポートを行い、未来の森を作る活動に携わりました。全国植樹祭が長野県で開催されるのは五十二年ぶりのことであり、学生たちにとっては貴重な体験となりました。

また、六月四日(土)、飯山市において第四十五回全国林業後継者大会が全国植樹祭の関連行事として開催され、林大生も参加しました。同大会の中で二年生の野本浩幸さん、野田愛風さん、児玉月之助さんが、「これからの明るい林業を目指す担い手からの提言」と題して、トークセッションの部で発表を行い、林野庁や全国の林業関係者から「林大生の若い素直な意見はよかった」といった感想が述べられるなど、大変高い評価を得ました。ポスター展示のブースでは、本校についていろいろな質問があり、学生たちは自分の経験を踏まえ、真剣に対応していました。

第45回 全国林業後継者大会

林大の誇る精鋭による発表です
カッコイイですね！

林大をPRしてます

第67回 全国植樹祭

校長を先頭にセレモニーの観覧です

１年生もみんなで頑張りました

編集後記

今年、はじめて木曽に住むことになりました。過去には何度かこの地を訪ねたことはありましたが、長期間滞在するのは今回が初めてのことです。信州は山国と言われておりますが、木曽地域は、その中でもひときわ山深い辺境の地といったイメージがあり、かの島崎藤村も「木曽路はすべて山の中にある」と著作の中で綴っております。

しかし、辺境の未開の地と思いきや、歴史は古く、その地名は平安時代の文献から散見され、江戸時代には五街道の一つに数えられる中山道が通っていた交通の要衝であったことは御存じのとおりです。このような大自然と歴史・文化という地域資源を持ったこの地に住むことは、ある意味贅沢なことであり、その幸せをかみしめながら生活をしているところです。生徒の皆さんは、まだ、そんなことは考えないでしょうが、ここでの二年間が人生の中の有意義な一コマとなることを期待してやみません。

■事務局　長野県林業大学校内　〒397-0002　長野県木曽郡木曽町新開4385-1　TEL 0264-23-2321　FAX 0264-21-1058